

令和4年度  
事業報告書

自：令和4年4月 1日  
至：令和5年3月31日

公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構

# 概 況

令和4年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染者が多数発生する中、引き続き拡大防止対策に万全を期しつつ、健全で安定した経営基盤の維持、公益実現への貢献ならびに社会からの期待に相応しい事業運営を目指すことを使命に、社会に定着しつつあるWebによる開催など積極的に事業活動の展開に取り組んだ。

管理運営活動では、所要の会議を、Webによる開催と書面による決議の省略を併用して実施することにより、関係者との協議・合意形成を図った。また、事業活動では、琵琶湖・淀川水系の健全な水環境の実現のための調査研究、広報啓発、活動支援事業について、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を踏まえたWebによる成果報告会の開催や活動報告の紹介等の対応を行うとともに、行動制限の緩和を受けた年度後半では現地開催により行われたイベントに参加し、数年ぶりに対面による啓発事業を行った。あわせて、TwitterやYouTubeを活用した機構の活動紹介を行うなど、引き続き「飲める水 遊べる水辺 次世代に」をキャッチフレーズとして掲げ、「遊んだり、泳いだりするのに適した河川や湖にする」という目標を実現するために、琵琶湖・淀川水系が抱える水環境課題の解決に向けた取組みを実施した。

## I . 管理運営活動等

### 1. 評議員会、理事会、評議員会・理事会幹事会等

評議員会、理事会、評議員会・理事会合同幹事会を開催し、事業運営全般について検討・審議を行った。

#### (1) 評議員会

##### 第1回評議員会（決議の省略）

評議員会運営規程第9条の規定に基づく決議の省略により、下記事項につき令和4年5月12日に評議員会の決議があったものとみなされた。

- ・議 案：・評議員の選任
- ・理事の選任
- ・監事の選任

##### 第2回評議員会

- ・日 時：令和4年6月29日 午前10時～11時30分
- ・場 所：当機構事務所

（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Web会議システムを使用）

- ・議 案：・令和3年度事業報告及び決算書類の承認
- ・報告事項：・常務理事（事務局長）にかかる公募実施
- ・令和4年度のあり方検討の進め方

##### 第3回評議員会

- ・日 時：令和5年3月14日 午後1時30分～3時15分
- ・場 所：当機構事務所

（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Web会議システムを使用）

- ・議 案：・理事の選任
- ・令和4年度収支予算書（補正）の承認

- ・機構の今後のあり方にかかる見直しの承認
- ・令和5年度事業計画書の承認
- ・特定資産の取崩しの承認
- ・令和5年度収支予算書・資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類の承認
- ・報告事項：
  - ・資金管理・運用規程の変更
  - ・令和5～6年度学術委員
  - ・機構事務所の移転

## (2) 理事会

### 第1回理事会（決議の省略）

定款第36条の規定に基づく決議の省略により、下記事項につき令和4年4月26日に理事会の決議があったものとみなされた。

- ・議案：
  - ・令和4年度第1回評議員会を決議の省略で実施

### 第2回理事会

- ・日時：令和4年5月12日 午後1時30分～1時45分
- ・場所：当機構事務所  
(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Web会議システムを使用)
- ・議案：
  - ・理事長の選定

### 第3回理事会

- ・日時：令和4年6月10日 午前10時～11時30分
- ・場所：当機構事務所  
(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Web会議システムを使用)
- ・議案：
  - ・令和3年度事業報告及び決算書類の承認
  - ・常務理事（事務局長）にかかる公募実施の承認
  - ・令和4年度第2回評議員会の招集
- ・報告事項：
  - ・理事長・常務理事の職務の執行の状況
  - ・令和4年度のあり方検討の進め方

### 第4回理事会（決議の省略）

定款第36条の規定に基づく決議の省略により、下記事項につき令和4年7月13日に理事会の決議があったものとみなされた。

- ・顧問選任の同意

### 第5回理事会

- ・日時：令和5年2月24日 午後3時～4時30分
- ・場所：当機構事務所  
(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Web会議システムを使用)
- ・議案：
  - ・令和4年度収支予算書（補正）の承認
  - ・機構の今後のあり方にかかる見直しの承認
  - ・資金管理・運用規程の変更の承認
  - ・令和5年度事業計画書の承認
  - ・特定資産の取崩しの承認
  - ・令和5年度収支予算書・資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類の承認
  - ・令和4年度第3回評議員会の招集
- ・報告事項：
  - ・理事長・常務理事の職務の執行の状況

- ・理事長専決報告（職員給与規程の一部改正）
- ・令和5～6年度学術委員
- ・機構事務所の移転

### （3）評議員会幹事会・理事会幹事会

#### 第1回評議員幹事会・理事会幹事会合同会議

- ・日 時：令和4年5月27日 午前10時～11時10分
- ・場 所：当機構事務所（Web会議）
- ・議 題：
  - ・令和4年度第3回理事会の案件
  - ・令和4年度第2回評議員会の案件
  - ・令和4年度の機構のあり方検討の進め方

#### 第2回評議員会幹事会・理事会幹事会合同会議

- ・日 時：令和4年12月8日 午後1時30分～2時50分
- ・場 所：当機構事務所（Web会議）
- ・議 題：
  - ・機構の今後の在り方
  - 一次期(令和5～7年度)事業計画・運営計画一

#### 第3回評議員会幹事会・理事会幹事会合同会議

- ・日 時：令和5年2月8日 午前10時～11時
- ・場 所：当機構事務所（Web会議）
- ・議 題：
  - ・令和4年度第5回理事会の案件
  - ・令和4年度第3回評議員会の案件

## 2. 公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構の今後のあり方の見直し

今後の機構のあり方について、機構の運営を中長期的に安定したものとする見直しを行うため、令和3年度のあり方検討ワーキンググループにおける検討結果（構成団体アンケートや関係機関ヒアリング及び外部コンサルタントへの委託調査結果のとりまとめ）をもとに、評議員会幹事会・理事会幹事会合同会議において、事業の見直しや経費縮減と合わせ収益増加策について、令和4年度の検討を行った。協議検討した結果をとりまとめ、理事会、評議員会の承認を受けて、一次期(令和5～7年度)事業計画・運営計画一を定めた。

## 3. 常務理事候補者の選定

令和5年度からの就任を予定し、常務理事（事務局長を兼務）候補者について公募選考を実施した。結果、候補者1名が評議員会、理事会の決議を経て常務理事候補者として選定した。

## 4. 資金管理・運用規程に基づく資産運用について

基本財産として保有する債権について、第5回理事会で規定の変更について承認を受け、第3回評議員会に報告をおこなった資金管理・運用規程に基づき、資金運用委員会を令和5年3月22日、令和5年3月28日に開催し、承認を受けた保有債券の売買を2回にわたり行い、将来に向けての歳入増を図った。

- ・令和5年3月24日 額面1億円の公共債を売却し同額の国債を購入
- ・令和5年3月28日 額面10億円の公共債等を売却し同額の仕組債を購入

## Ⅱ．事業活動等

令和4年度は、引き続き琵琶湖・淀川流域における水環境問題を流域全体で解決するための一翼を担い、「飲める水 遊べる水辺 次世代に」をキャッチフレーズに、調査研究事業、広報啓発事業および活動支援事業を実施した。

### 1. 水質保全調査研究事業

#### (1) 水質保全調査研究開発事業(自主事業)

琵琶湖・淀川水系は各府県に跨っており、水系の水環境問題を解決するためには流域全体を対象とした取り組みが必要不可欠である。そのため、流域全体で取り組むべき課題、自治体を越えた解決への取組が効率的かつ有効な課題を中心に、行政が適切な施策を講じる際に必要となる研究課題に取り組み、流域全体の水環境保全の向上、流域連携の推進への寄与を目的として研究を進めている。

流域の水質・水環境情報や成果は当機構のホームページ上に公開し、調査研究成果等は関係府県・機関の施策等に活用してもらえよう、評議員会、理事会、幹事会の他、研究助成成果報告会等の機会を利用し、研究成果の情報・知見の提供に努めている。

研究テーマとしては、琵琶湖・淀川流域全域を対象にした『生活環境保全に関わる調査検討』、『健康リスク問題に関わる調査検討』および『環境変化への対応』に関する課題に取り組んでいる。

令和4年度は木津川上流域を対象として、河川の汚濁負荷対策を考える上で欠くことができない負荷量や負荷発生源の推定に関する検討を行った。その結果、降雨により発生する汚濁負荷量を考慮することで、各種汚水処理施設等を含む点源負荷や面源負荷が河川の汚濁に与える影響の推定に資する結果が得られ、降雨影響時の水質調査の重要性が明らかとなった。

また、近年、水道水のカビ臭問題や対策が検討されている室生ダムを対象に、カビ臭の原因物質を生産する藍藻類の発生に関する解析を実施した。その結果、浅層曝気装置の稼働時期の前倒しがカビ臭原因藍藻の発生を抑制できる可能性を示唆する結果が得られた。

得られた成果はシンポジウムや学会で発表し、自治体および一般に向けて広く公表した。

#### (2) 調査研究の成果の発表及び社会活動等

##### ① 国内・国際学会・シンポジウム発表

- ・第25回日本水環境学会シンポジウム

(2022年9月、東京(ハイブリッド開催))

類家・稲森(隆)・稲森(悠)・鮫島・新井・和田・中川 「高度処理のための過曝気低 pH 環境および曝気自動制御下の微小動物の群集構造解析」

- ・日本水処理生物学会第58回大会(2022年11月、熊本)

類家・稲森(隆)・稲森(悠)・和田・中川 「室生ダムにおける藻類相と環境条件の比較」

- ・第57回日本水環境学会年会（2023年3月、愛媛）  
類家・和田・中川・立花・西村 「名張川の本川および流入河川を対象とした汚濁負荷特性の解析」

## ② 講演・社会活動等

- ・JICA課題別研修コース（国際湖沼環境委員会（ILEC）・JICA）  
和田 「琵琶湖・淀川流域における水環境管理について」（2022年9月）
- ・筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群環境科学・環境学学位プログラム「令和4年度 持続性科学・技術・政策プログラム（SUSTEP）学生のための国内研修（京都、大阪、神戸）」  
類家 「Introduction of the Lake Biwa-Yodo River Basin」  
(2023年2月)

## ③ 出展等

令和4年度は、行動制限の緩和に伴いイベント出展を再開し、琵琶湖・淀川流域の水環境啓発や機構のPRをおこなった。また、前年度に引き続き『京都環境フェスティバル2022』のオンライン企画にWebページを作成して出展した。

### 1) 京都環境フェスティバル2022

◇オンライン企画【機構を紹介するWebページ】

〔開催期間：令和4年11月11日～12月11日〕

◇現地企画【ブースによる機構を紹介する出展】

〔開催日：令和4年12月4日〕

〔場 所：京都JAビル〕

### 2) 琵琶湖・淀川流域シンポジウム

〔開催日：令和5年3月20日〕

〔場 所：大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）〕

◇三和伸彦 理事長が、滋賀県理事及び当機構理事長として、講演およびトークセッションに参加

◇ブースによる機構を紹介する出展

## (3) 琵琶湖・淀川水質浄化研究所報告の公表

令和4年度の調査研究成果や活動実績についてとりまとめ、BYQ水環境レポートに掲載した。

## (4) 学術委員会の開催

令和5年度の『水質保全研究助成』の募集分野について議論いただくとともに、琵琶湖・淀川水系の水質保全のために実施している調査研究事業の内容を報告し、学術委員から幅広く指導や助言を得た。

- ・日 時：令和4年12月23日 午後1時30分～3時30分

- ・場 所：当機構事務所（Web会議）

- ・審議報告事項：

令和5年度水質保全研究助成について

水質保全調査研究について（報告）

こども水質保全活動助成の取り組みについて（報告）

## 2. 水質保全広報・啓発事業

### (1) BYQ水環境レポートによる水環境情報の広報

琵琶湖・淀川流域における水利用や水質の状況、変遷等の情報を一元的に取りまとめた年次報告書「BYQ 水環境レポート」を、継続して発行・公表している。

令和4年度は、令和3年度版を作成し、関係機関に印刷冊子を配布するとともに、幅広く一般広報する目的から、流域内114の公立図書館等に寄贈し、機構のWebサイトにも「琵琶湖・淀川流域の水環境の現状」として、資料編とともに掲載した。

### (2) WAQU<sup>2</sup>調査隊による水環境保全の啓発

身近にある湖沼や川の状況を、流域に住む住民自らが主体的に出向いて調べることにより、その水質に興味を持ち、水に親しみを感じ、さらに水環境について考えてもらうことを目的に実施した。隊員が河川の水質（COD：化学的酸素要求量）を調査するとともに水の臭いや濁り、水辺の状態を観察し、調査結果は、GIS（地理情報システム）を用いて機構で取りまとめた。取りまとめた調査報告はリーフレットにまとめ参加者に配布するとともに、機構のWebサイトで公開した。また、実行委員として参画する「身近な水環境の全国一斉調査（全国水環境マップ実行委員会主催、国土交通省・環境省後援）」にも調査データを提供し全国調査の一端も担った。

- ・令和4年度：参加者（＝隊員数）169人、調査地点196地点  
\* 数字は、5月16日時点の登録人数・登録地点数
- ・調査実施日：令和4年6月5日  
\* 新型コロナウイルス感染症対策や天候、調査地点の状況を考慮して、基準日（6月5日）前後の5月28日から6月30日の安全に実施できる時期に調査を実施する旨周知し、この期間に報告があった調査データは「身近な水環境の全国一斉調査」にも提供した。
- \* 平成16年から実施する本事業は、所期の目的を一定程度達成したものととして、令和4年度の実施をもって休止することとした。

### (3) BYスタンプラリーによる水環境保全の啓発

市民団体が主催する水質保全活動への参加や水関連施設の見学を通して、流域住民が水環境への関心を高めていくことを目的に実施している。市民団体が主催するイベントや水環境関連施設の紹介マップを掲載した「かわら版」を年3回発行し、Web上で公開するとともに、市民団体や水環境関連施設等に配布した。

また、水環境関連施設のイベント情報についても機構Webサイトで紹介した。

- ・令和4年度：協賛施設21施設、協賛団体 NPO・市民団体等46団体
- ・参加者数：コロナ禍において、市民団体等のイベント主催者は感染対策を講じつつ可能な範囲で催しを実施、見学施設については行政のガイドラインに沿った感染対策を講じた上での開館などの対応により、令和4年度の参加者数は21人だった。

### (4) 水情報冊子「散策ブック」による琵琶湖・淀川流域の広報・啓発

琵琶湖・淀川流域内の河川に関する幅広い情報を紹介・広報し、流域住民の水環境への関心を高めていくことを目的に冊子を配布した。また、全25巻すべて、機構Webサイトから閲覧、ダウンロードが可能としている。

- ・令和4年度配布実績：件数15件 冊数752冊

### 3. 水質保全活動支援事業

地球温暖化や微量有害物質の問題等、琵琶湖・淀川流域が抱える水質保全の課題解決に資することを目的に水質保全研究助成を実施した。また、次世代の水質保全活動の担い手の育成を進めるため、琵琶湖・淀川流域の小・中・高・特別支援学校、NPO法人、市民団体等が行う水質保全活動に対して活動助成を行った。

#### (1) 水質保全研究助成

令和4年度は、申請期間1月20日から2月28日の間にあった応募数6件のうち4件を水質保全研究助成選考委員会にて採択した。また、助成した研究内容について成果報告会を開催し、幅広く情報共有を図った。

##### 【令和4年度募集分野】

- ① 湖沼・ダム湖等閉鎖性水域の新たな水質課題・視点に関する調査研究  
閉鎖性水域（湖沼やダム湖等）の水質課題の解決策に資する研究を対象  
例えば、プランクトンの異常繁殖の発生など近年の富栄養化に関する新たな水域現象・課題・制御技術・研究の切り口・研究方策、水域生態系での物質循環、エネルギー・物質・資源循環の健全化への対応策、適正な栄養レベル など
- ② 気候変動に伴う水質変化など流域水環境管理のための調査研究  
気候変動が及ぼす水温・水質（プランクトンを含む）影響に関係する水質汚濁・汚染負荷などに関する予測解析・評価、削減・制御技術や施策等に関する調査研究を対象
- ③ 安全で安心な水のための健康リスクに関する調査研究  
水系病原性微生物、微量有害化学物質等の水環境中での挙動把握、人や水生生物への影響評価、削減・制御技術や施策等に関する研究を対象

##### 【令和4年度採択助成研究】

- ・高解像度メタバーコーディング手法で描く琵琶湖・淀川水系における病原細菌群の全容
- ・琵琶湖・淀川水系における超親水性溶存有機物の強酸性官能基の存在実態
- ・河川に広く分布する下痢症起因ウエルシュ菌の拡散機構の解明と水質保全への提言
- ・琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究

##### 【令和4年度成果報告会】

令和4年度成果報告会は、オンラインセミナー形式で開催し、当機構研究員による「木津川上流域における降雨の影響を含めた汚濁負荷特性に関する講演」をおこなうとともに、令和4年度に採択した4件の助成研究について、助成を受けた研究者がそれぞれの成果を報告した。

- ・日 時：令和5年3月24日 午後1時30分～4時
- ・参加者：49名(行政・事業体関係者、教育・研究者、企業関係者、市民)

オンラインセミナー形式での開催により、琵琶湖・淀川流域のみならず関東圏や九州、四国などから視聴があった。

## (2) 琵琶湖・淀川こども水質保全活動助成

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じたうえで事業の実施にあたるよう求め、申請期間を4月7日から5月16日までとして募集を行い、こども水質保全活動助成選考委員会において助成対象として採択された5件について助成をおこなった（要領・要綱に定める「1団体 最長3年まで」を超えて応募した1団体は対象外とした）。

また、令和3年度に助成した活動についての成果報告会を、3年ぶりに夏休み期間中に大阪で開催した。代表者や実際に活動した生徒によるプレゼンテーションなど、助成成果についての知見共有と熱気ある交流を図ることができた。なお、報告会での報告を含む活動レポートは、当機構 Web サイトにおいて公開している。

また、令和4年度までに「こども助成」を活用した延べ79団体の一覧を、年度別、所在地ごとに検索できるよう、Google マップにプロットしたページを当機構 Web サイトで公開している。

### 【こども水質保全活動助成の視点・内容】

- ① 琵琶湖・淀川流域をフィールドとした体験的な学習活動が含まれること
- ② 上流・下流のつながりなど広域的な視点があること
- ③ 今後の水質保全活動の参考となるような創意工夫があること

### 【令和4年度採択助成活動】

- ・未来のびわ湖人育成のための学習支援事業
- ・よみがえれ横大路沼ビオトープ プロジェクト
- ・野洲川支流から源流に位置する里山の整備事業 及び体験型環境学習による子どもの育成事業
- ・「有栖川のカッパ流域ネットワークで育む地域活性と豊かな自然環境」
- ・「福住の清流 布目川」に学ぶ

### 【令和3年度成果報告会】

- ・日時：令和4年8月30日 午後2時～4時10分
- ・場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）
- ・参加団体：5団体